乳房炎　その３

乾乳期乳房炎

　乾乳期乳房炎は、乾乳期の乳房にしこりができ、分娩後にはブツの混じった乳汁を出します。これは乾乳期に初めて感染するよりは、その前の泌乳期に潜在性乳房炎になっているケースが多いようです。

＊　潜在性乳房炎

ブツや乳房の腫れなどの目に見える症状はありませんが、細菌数や体細胞数が高く、乳汁検査で異常がわかります。ストレスなどで発症します。

　今まではケラチンプラグを取らないために、乾乳期は治療・搾乳を避けるべきだということでしたが、分娩予定日の５～10 日前にＰＬテストを行い、ｐＨ（色）を指標として、乳房炎と判断されたものには、泌乳期軟膏を使用することで分娩後の状態が 100%改善（臨床型乳房炎の発生とバルク体細胞数の激減）されたという報告でした。使用する軟膏の量は状態により違いがあるようです。

　乾乳期乳房炎を予防するために、正しい搾乳手順を守り、泌乳期の潜在性乳房炎を防ぐことが重要です。

（日本乳房炎研究会　第１０回学術集会から）